

経営比較分析表（令和5年度決算）

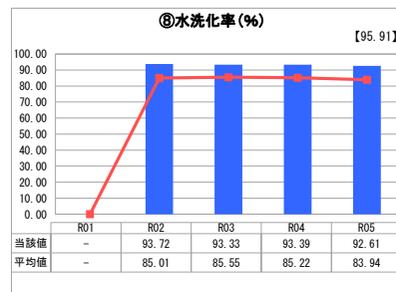
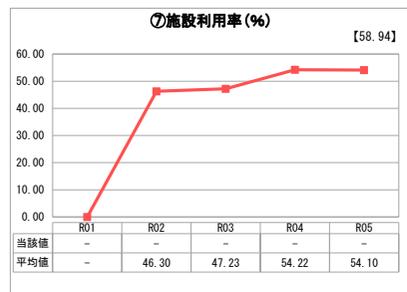
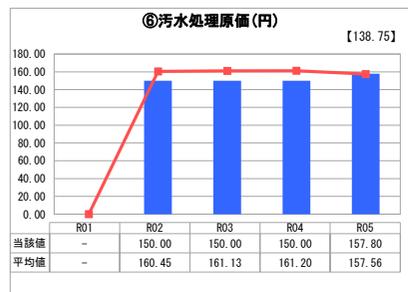
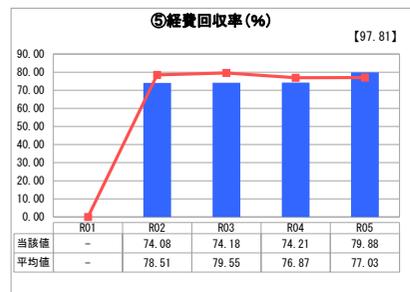
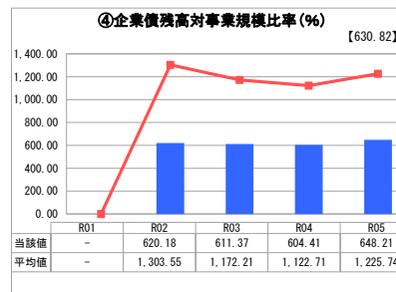
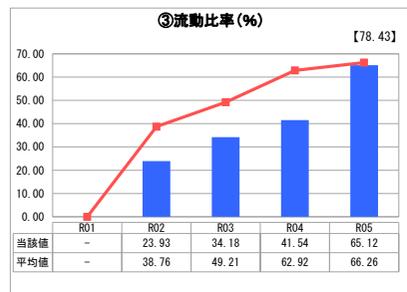
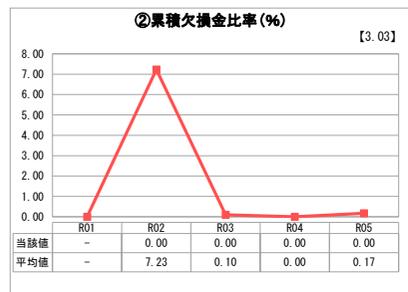
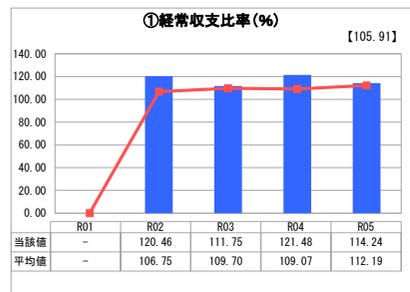
栃木県 野木町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cb2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	46.73	66.63	85.10	2,530

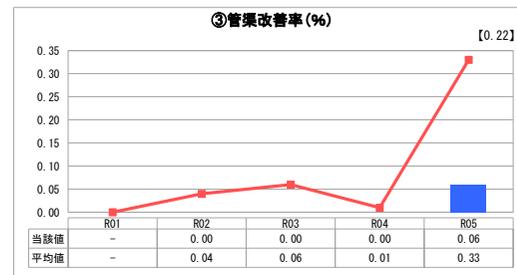
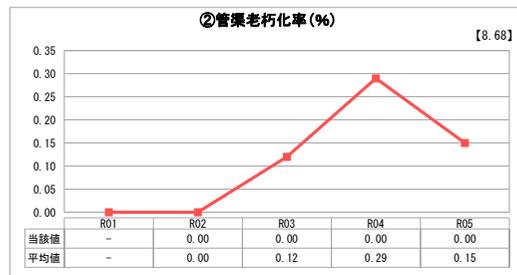
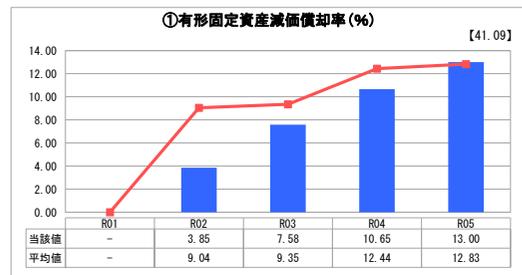
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
25,006	30.27	826.10
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
16,631	2.74	6,069.71

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%を上回っており、単年度収支は黒字となっている。一般会計からの繰入に依存しているため、自己財源の確保に努める。
 ② 累積欠損金比率は当年度未処理欠損金が生じていないため0%となっている。
 ③ 流動比率は100%を下回っているが、流動負債の多くは翌年度返済予定の企業債であり、使用料収入等により、償還の原資を得ることが予定されているため、支払能力が欠けている状況ではない。
 ④ 企業債残高対事業規模比率は類似団体平均値と比較して低い水準にある。適切な投資規模を見極めつつ、施設への投資をしていく必要がある。
 ⑤ 経費回収率は100%を下回っており、現状一般会計からの繰入に依存している。今後適正な使用料収入の確保に努めていく。
 ⑥ 汚水処理原価は類似団体平均値をわずかに上回っている。汚水処理費の大半を流域下水道事業の負担金が占めており、近年の物価高騰の影響もあり増加傾向となっている。
 ⑦ 施設利用率は処理施設を所有していないため生じていない。
 ⑧ 水洗化率は類似団体平均値と比較し、高い水準となっている。引き続き普及促進に努めていく。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は類似団体と近い値であり、低い水準となっているが、令和2年度から法適化されているため、実態は指標以上に老朽化が進んでいる状況にある。
 ② 管渠老朽化率は現在法定耐用年数を経過した管渠がないため値は生じていない。
 ③ 令和5年度は劣化度調査の結果から、一部更新を進めているため、管渠改善率に値が生じている。引き続き計画的に更新していく必要がある。

全体総括

経営上の指標に関しては良好な値を示しているものが多いが、一般会計からの繰入に依存している状況であるため、使用料等の自己財源を確保していく必要がある。また、耐用年数を迎えた管渠は存在していないが、老朽化は進んでいるため、適正な投資規模を把握しつつ、計画的に更新を行う必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。